

## 第2章 明石市の概況と緑を取り巻く状況

### 2-1. 明石市の概況

#### (1) 社会条件

##### ① 位置

明石市は、明石海峡と淡路島が目の前に広がる兵庫県南部中央に位置し、東経 135 度の日本標準時子午線が通過していることから、「子午線のまち」、「時のまち」として全国に広く知られています。

市の東部及び北部は神戸市（垂水区、西区）に、西部は加古川市、稲美町、播磨町に接しています。また、神戸市からは 20km 圏域、大阪市からは 50km 圏域に位置しています。

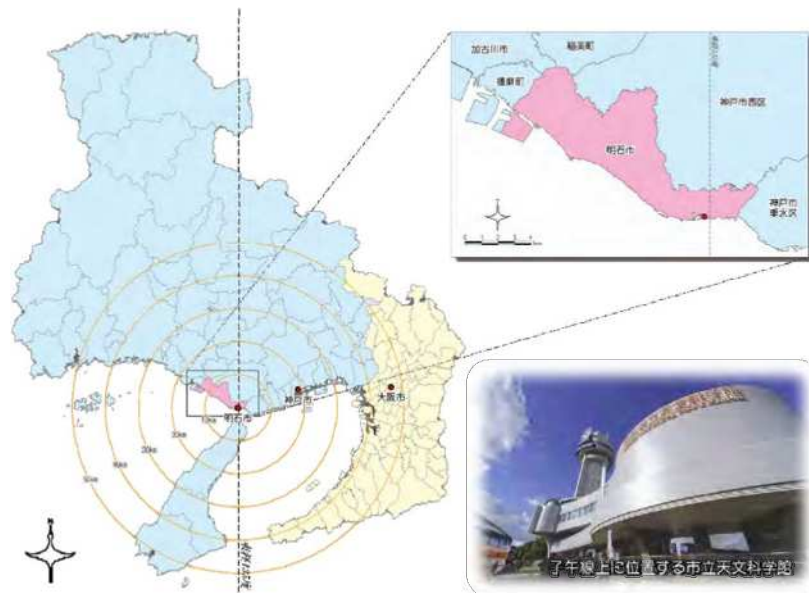


図 6：明石市位置図

##### ② 土地利用

明石市の土地利用の変遷をみると、昭和 51(1976)年度の時点では市内の中部及び西部の一角に田等の農用地が広がっていましたが、年を経るごとに建物用地が増加していき、農用地は減少し、現在は点在して残っている状況です。樹林についても、大久保北部にあった樹林は現在、明石クリーンセンターの最終処分場としてなくなっています。

現在の明石市は、市域の大部分が建物用地として利用され、特に東部においてそれが顕著となっています。市の中部及び西部においては、田等の農用地が点在し、農地に隣接して河川地及び湖沼（ため池）が立地しています。市の北部においては、松陰新田、金ヶ崎地区を中心に森林（樹林）が立地しています。

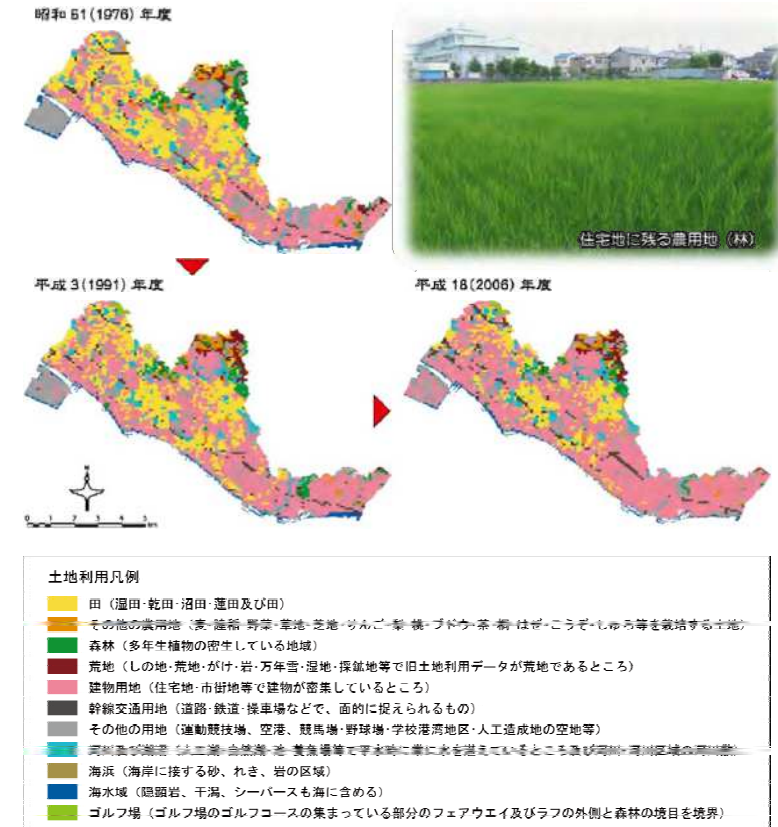


図 7：土地利用の変遷

注 1) データの作成年度により、土地利用種別の項目は異なるが、ここでは 11 区分に統合して整理している。  
 出典) 国土交通省国土計画局 参事官室「国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ」(データ作成年度: 昭和 51 年度、平成 3 年度、平成 18 年度)

③ 人口

明石市の人口は、過去 10 年間で 29 万人超でほぼ横ばいで推移していますが、高齢化率をみると年々増加してきており、平成 22 年 4 月 1 日現在、20.8% となっており、超高齢社会を目前に控えています。

地域別にみると、明石東部地域及び西明石地域では人口が減少傾向にあり、特に明石東部地域では高齢化率が 25% 程度と、他地域と比較して 5 ポイント程度高くなっています。

大久保地域及び魚住地域では人口が増加傾向にあり、二見地域はほぼ横ばいで推移しています。これらの 3 地域の高齢化率はいずれも 20% 弱となっています。

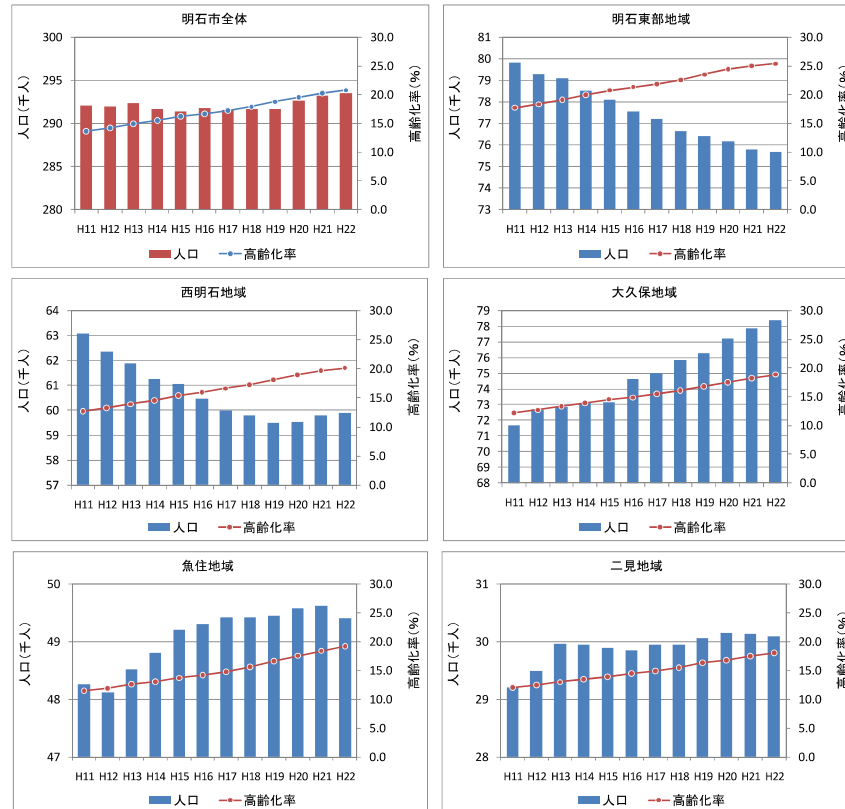


図 8：明石市全体及び地域ごとの人口及び高齢化率の推移（平成 11 (1999) 年～平成 22 (2010) 年）

注 1) 各年 4 月 1 日現在の値。  
出典) 明石市統計書（平成 11 年版(1999 年)～平成 21 年版(2009 年)）及び明石市 H P 統計情報 ([http://www.city.akashi.hyogo.jp/soumu/j\\_kanri\\_ika/i\\_toukei/documents/community\\_jinkou1004.pdf](http://www.city.akashi.hyogo.jp/soumu/j_kanri_ika/i_toukei/documents/community_jinkou1004.pdf)) の「コミュニティ別住民基本台帳人口」及び「コミュニティ別人口の特性（住民基本台帳人口）」から地域別に再集計した。

(2) 自然条件

① 地勢

明石市の面積は 49.25km<sup>2</sup>、周囲は 60.4km です。最長距離は、東西 15.6km（海岸線は 15.9km）、南北 9.4km であり、瀬戸内海に面した東西に細長いまちを形成しています。

明石市は、播磨平野の東部に位置し、周辺は印南台地と呼ばれる河岸段丘となっており、市域の最高地が標高 94.6m（大久保町松陰）と、比較的平坦な地形となっています。

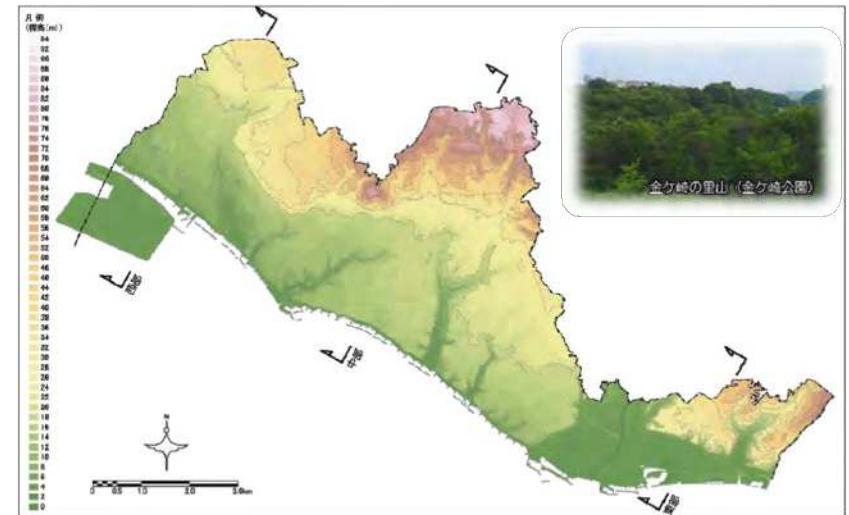


図 9：明石市地形図

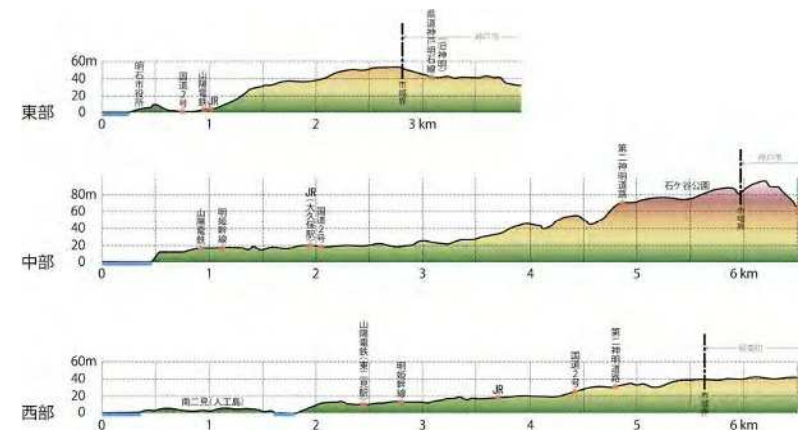


図 10：断面図

② 気候

明石市は、年平均気温 15.9℃、年間降水量 1,062 mm、年間日照時間 2,000 時間（いずれもアメダスデータ、平成 13(2001)年～平成 22(2010)年の平均値）と、全国的にみて比較的温暖で雨が少なく、日照時間が長い地域です。

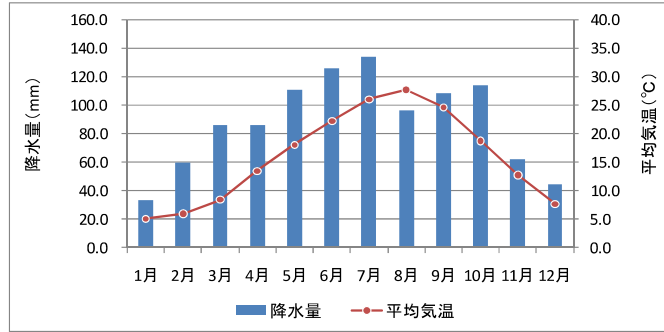


図 11：明石市の降水量と平均気温

出典) アメダス観測所（明石：明石市二見町南二見）、平成 13(2001)年～平成 22(2010)年の平均値

③ 水系資源

明石市は、東西に長く瀬戸内海に面しており、海岸線の多くは砂浜・砂利浜が形成されています。市域の東西にわたって、ほぼ等間隔で河川が流下し、市域の中西部には、107 箇所ものため池が立地しています。

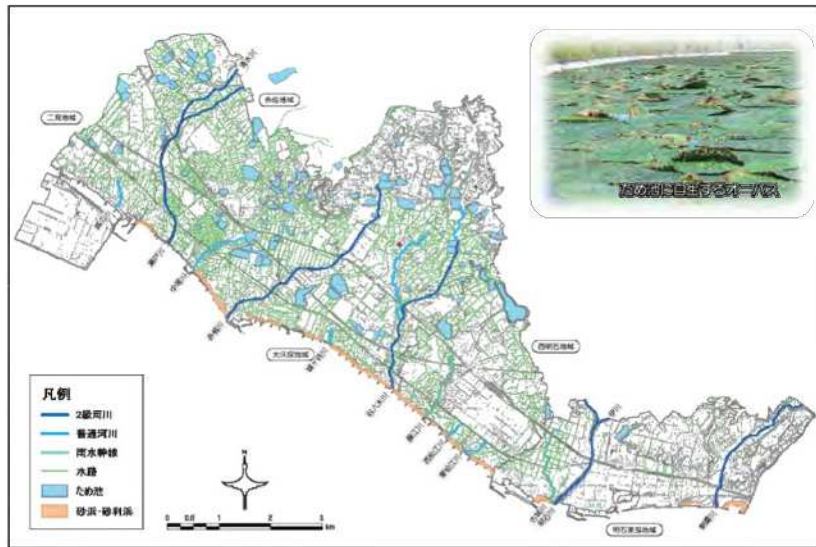


図 12：水系資源位置図

(3) 文化・歴史条件

① 歴史

明石市は、100 万年前頃に生息していたアカシゾウ（アケボノゾウ）の化石や、「明石原人」の腰骨が発見されるなど、豊かな歴史を有する地域です。当地域には数万年前の旧石器時代には人が住み始めたといわれ、大久保町西脇や藤江からは石器や土器等が出土し、窯跡や古墳が築かれるなど、古代からの歴史が脈々と息づいています。先史から、古代・中世を経て近世へと明石のまちは発展を遂げていきます。江戸時代には小笠原家 10 万石（後に松平家 8 万石）の城下町として栄えました。阪神と播磨との接点に位置するという恵まれた地理的条件を生かし、交通の要としての役割を果たしてきました。

明石市市域は、明治 22(1898)年に町村制が施行され、大正 8(1919)年、明石郡明石町が明石市として市制を施行しました。昭和 17(1942)年には林崎村を、昭和 26(1951)年には大久保町、魚住村、二見町をそれぞれに合併し、現在の市域が形成されました。

昭和 35(1960)年以降は、企業進出、住宅開発に伴う阪神都市圏からの人口流入などを受け、住宅都市・産業都市としての著しい成長を遂げ、今日では、面積 49.25km<sup>2</sup>、人口約 29 万人を擁する特例市に発展しました。



写真 5：アカシゾウの骨格標本

出典) 明石市立文化博物館 HP



写真 6：奈良時代の駅家跡と目される長坂寺遺跡



写真 7：明石城と武家屋敷（明治初年）

出典) 播磨学研究所・明石文化財調査団『ふるさと明石・写真帳』



写真 8：中崎遊園地（明治）

出典) 播磨学研究所・明石文化財調査団『ふるさと明石・写真帳』

参考文献

明石市 HP (<http://www.city.akashi.hyogo.jp/>)、明石市教育委員会 HP (<http://www.edi.akashi.hyogo.jp/kyoiku/index.php>)  
 明石観光協会 HP (<http://www.yokoso-akashi.jp/>)、明石市立文化博物館 HP (<http://www.akashibunpaku.com/index.html>)

② 地域資源

豊かな歴史を持つ明石市には、自然・歴史・文化に関する様々な地域資源があります。特に緑地と関わりの深い屋外空間に残る地域資源は下記のとおりです。

表6：緑に関わる地域資源一覧

区分	地域資源		
自然資源	(A-1) 屏風ヶ浦(林崎～二見の海岸)	(A-5) 八木海岸※ <sup>3</sup> (八木)	
	(A-2) 林崎～松江海岸※ <sup>2</sup> (林崎、松江)	(A-6) アカソウの発掘地(八木)	
	(A-3) 赤石(松江)	(A-7) 江井ヶ島海岸と周辺※ <sup>2</sup> (江井島)	
	(A-4) 藤江の浦(藤江海岸一帯)	(A-8) 西岡海岸(西岡)	
先史	(B-1) 狩口(大蔵谷狩口)	(B-8) カゲユ池古墳(市史跡)※ <sup>1</sup> (藤江)	
	(B-2) 上ノ丸遺跡(上ノ丸)	(B-9) 西脇遺跡(西脇)	
	(B-3) 稲爪神社(大蔵本町)	(B-10) 「明石原人」の発見地(八木)	
	(B-4) 岩屋神社(材木町)	(B-11) 文五郎塚(金ヶ崎)	
	(B-5) 鉄船の森(東藤江)	(B-12) 赤根川・金ヶ崎窯(金ヶ崎)	
	(B-6) 藤江別所遺跡(藤江)	(B-13) 鴨谷池遺跡(鴨池)	
	(B-7) 藤江出ノ上遺跡(藤江)	(B-14) 髷塚(清水)	
古代	(C-1) 西国街道(大蔵谷～魚住町清水)	(C-8) 飯塚の岡(東二見)	
	(C-2) 太寺廃寺塔跡(付 寺地出土瓦)(県史跡)※ <sup>1</sup> (太寺)	(C-9) 弘法大師の霊水(東二見)	
	(C-3) 月照寺(人丸町)	(C-10) 西光寺とまちなみ※ <sup>3</sup> (西脇)	
	(C-4) 柿本神社(人丸山)※ <sup>3</sup> (人丸町)	(C-11) 江井ヶ島漁港(江井島)	
	(C-5) 坂上寺(和坂)	(C-12) 名守岡の船瀬(西島)	
	(C-6) 高丘古窯跡群(5・6・7号窯、8・9号窯)(県史跡)※ <sup>1</sup> (高丘)	(C-13) 長坂寺遺跡(長坂寺)	
	(C-7) 薬師院(ポタン寺)と周辺※ <sup>3</sup> (西岡)		
中世	(D-1) 馬塚碑(人丸町)	(D-10) 船上城跡(神明町)	
	(D-2) 本松寺(上ノ丸)	(D-11) 大久保本陣跡とまちなみ※ <sup>3</sup> (大久保)	
	(D-3) 西林寺(大蔵町)	(D-12) 報恩寺跡(西脇)	
	(D-4) 大蔵の旧街道のまちなみ※ <sup>3</sup> (大蔵中町)	(D-13) 玄慶の池(八木)	
	(D-5) 大蔵院(大蔵本町)	(D-14) 魚住城跡(西島)	
	(D-6) 両馬川合戦跡(大蔵天神町)	(D-15) 魚住古窯跡群(江井島～中尾)	
	(D-7) 朝顔光明寺(鍛冶屋町)	(D-16) 金ヶ崎神社(金ヶ崎)	
	(D-8) 光明寺の明治天皇行在所跡(市史跡)※ <sup>1,3</sup> (鍛冶屋町)	(D-17) 正覚寺(金ヶ崎)	
	(D-9) 善楽寺平清盛五輪塔(大観町)		
歴史・文化資源	近世	(E-1) 高家寺本堂(太寺)	(E-16) 無量光寺・萬の細道(大観町)
		(E-2) 亀の水(人丸町)	(E-17) 岬町の漁港※ <sup>3</sup> (岬町)
		(E-3) 旧明石藩主松平家廟所(長寿院)(市史跡)※ <sup>1</sup> (人丸町)	(E-18) 十輪寺(西新町)
		(E-4) 明石神社(上ノ丸)	(E-19) 望海浜※ <sup>3</sup> (船上町)
		(E-5) 妙見社(上ノ丸)	(E-20) 立石の井(宮の上)
		(E-6) 明石城跡(国史跡)※ <sup>1</sup> (明石公園)	(E-21) 林崎掘割築記碑(市史跡)※ <sup>1</sup> (鳥羽)
		(E-7) 大蔵八幡神社(大蔵八幡町)	(E-22) 野々池※ <sup>3</sup> (明南町)
		(E-8) 圓樂寺(大蔵中町)	(E-23) 松陰新田のまちなみと寺池※ <sup>3</sup> (松陰新田)
		(E-9) 休天神社(大蔵天神町)	(E-24) 住吉神社(大久保・森田)
		(E-10) 明石港と周辺※ <sup>3</sup> (中崎他)	(E-25) 太陽酒造※ <sup>3</sup> (江井島)
		(E-11) 錦江橋付近の船溜り※ <sup>3</sup> (中崎)	(E-26) 太山寺道標(金ヶ崎)
		(E-12) 白雲の桜(桜町)	(E-27) 清水神社(清水)
		(E-13) 織田家長屋門※ <sup>2</sup> (大明石町)	(E-28) 茨木酒造※ <sup>3</sup> (西岡)
		(E-14) 町割り(中心市街地一帯)	(E-29) 横河重陳墓(観音寺)(市史跡)※ <sup>1</sup> (東二見)
		(E-15) 魚の棚※ <sup>2</sup> (本町)	(E-30) 二見港と周辺※ <sup>2</sup> (東二見)
近代	(F-1) 明石公園※ <sup>2</sup> (明石公園)	(F-6) 洋館と御小休所※ <sup>3</sup> (大久保)	
	(F-2) 中崎公会堂と松並木※ <sup>3</sup> (相生町)	(F-7) 鳴池記念碑(福田)	
	(F-3) ラ子オ塔(相生町)	(F-8) 寛政地紀功碑(西島)	
	(F-4) 岩佐家住宅(鳥羽)	(F-9) 江井ヶ島酒造※ <sup>3</sup> (西島)	
	(F-5) 藤江漁港(藤江)		
現代	(G-1) 松が丘公園※ <sup>3</sup> (松が丘)	(G-12) 石ヶ谷公園※ <sup>3</sup> (松陰・大窪)	
	(G-2) 明舞田地※ <sup>3</sup> (松が丘)	(G-13) 八木遺跡公園※ <sup>3</sup> (八木)	
	(G-3) 人丸山公園(人丸町)	(G-14) 金ヶ崎公園※ <sup>3</sup> (金ヶ崎)	
	(G-4) 市立天文科学館※ <sup>2</sup> (人丸町)	(G-15) 淡山疎水記念碑(長坂寺)	
	(G-5) 市立文化博物館(上ノ丸)	(G-16) 浜西のヒメコマツ(五葉松1本)(県天然記念物)※ <sup>1</sup> (清水)	
	(G-6) 中崎のペランダ護岸※ <sup>2</sup> (中崎)	(G-17) 西福寺・五輪石塔(清水)	
	(G-7) 時の道※ <sup>3</sup> (明石駅～明石城～人丸前駅)	(G-18) 住吉公園※ <sup>2</sup> (中尾)	
	(G-8) 大蔵海岸※ <sup>2</sup> (大蔵海岸通)	(G-19) 中尾親水公園※ <sup>3</sup> (中尾)	
	(G-9) 明石西公園(北王子町)	(G-20) 瑞応寺のそてつ(12株)(市天然記念物)※ <sup>1,3</sup> (東二見)	
	(G-10) 浜の散歩道(南王子町～魚住町江井島)	(G-21) 横河家・横河公園※ <sup>3</sup> (東二見)	
	(G-11) 林崎漁港(林)		

注1) ※1：指定史跡名勝天然記念物 ※2：わがまちあかし十景 ※3：わがまち景観50選  
 注2) 成立年代の時代区分…先史(B)：旧石器時代～古墳時代 古代(C)：奈良時代～平安時代 中世(D)：鎌倉時代～安土桃山時代  
 近世(E)：江戸時代 近代(F)：明治時代～第2次世界大戦 現代(G)：第2次世界大戦以降  
 注3) 表中の(銘号)は、図13中の銘号と対応している。また、表中の背景写真は昭和初期の西八木海岸(「ふるさと明石・写真帳」より)、  
 石田善人監修「明石文化財調査団編集『新明石の史跡』明石芸術文化センター(1997)、  
 黒田隆雄『郷土明石風土記』明石地方史研究会(1997)、明石市史編さん委員会『明石市史 現代編I』明石市(1999)、  
 明石市HP(<http://www.city.akashi.hyogo.jp/>)、明石市観光協会HP(<http://www.yokoso-akashi.jp/>)他

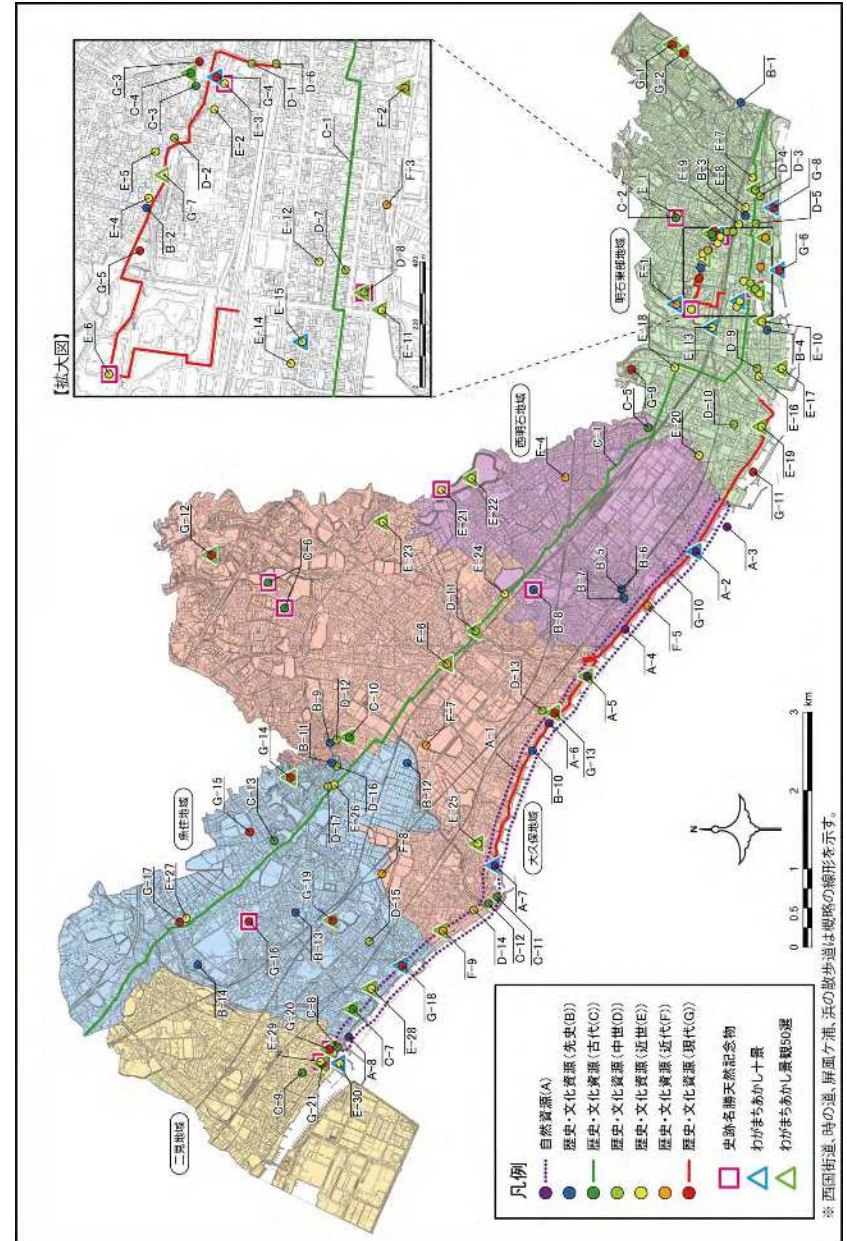


図13：緑に関わる地域資源分布図